

## NDCにかける期待

JADECOM-NDC研修センター 統括責任者 山田隆司

### これまで

地域医療振興協会(協会)でNDC(Nurse Designated Care: 特定ケア看護師)育成が始まって8年目になります。国が特定行為に関わる看護師の研修制度を創設して以来、初年度より手探りのなか研修が立ち上がりました。

協会は地域医療の確保とサービスの質向上を使命とする公益法人ですが、それに向けて貢献が期待されるとしてNP(Nurse Practitioner: 診療看護師)やNDC育成には大きな期待を寄せていました。アメリカやイギリスなど欧米諸国の過疎地域では、以前より総合医/家庭医の片腕としてNPが活躍しており、医師が不足している状況で欠かせない職種として認められています。

そういった背景からNDCについては当初より医師の一定の分野を技術的にサポートするだけでなく、限られた状況の中で自らが思考し判断できる能力が持てるよう、臨床推論の学習を重視し、21区分、38特定行為全てを履修するプログラムが作られました。プログラム作成および実際の指導体制の構築にあたってはNDC研修センター長である藤谷茂樹先生(聖マリアンナ医科大学救急医学教授)の強いリーダーシップのもとに実現したものです。研修開始当初は協会の教育機関病院であり、これまで研修医、専攻医育成に実績のある東京ベイ・浦安市川医療センターの指導医層を中心に実習指導をお願いし、教材作成についても多大な協力をいただきました。

国の制度では研修期間は1年間とされていま

すが、われわれのプログラムはあえて2年間とし、2年目は主に派遣元病院施設に戻り、それぞれの施設でのNDCとしての役割を見極めながら、施設内でしっかりと認知され、一定の役割を果たせるよう研修が進められました(表)。この際に統括的な指導者である診療看護師 筑井葉々子さんがNDC研修生ほぼ全ての研修元施設を訪問し、施設ごとに実際に研修生と一緒にになって、診療部や他職種間の業務の隙間を埋めるような調整をしていただきました。彼女の丁寧で地道な尽力がなかったら、このNDC研修が各施設にとって意味あるものとならなかったばかりか、研修が単なる資格取りの研修に留まり、NDCそのものが看護部と診療部の間で新人類のような扱いとなってしまっていたかもしれないことは想像に難くありません。

### 現在

現在2年目の研修には協会内のへき地診療所などでの2週間程度の実地研修が含まれるようになり、派遣元にとって役立つだけでなく、広く医療資源が少ない地域で活躍できるよう工夫されてきました。

NDC研修に関わる個人負担は免除されている代わりに、研修修了後必要とされる地域を一定期間支援することが求められていますが、すでに多くのNDC研修修了生が医師不足が深刻なへき地や離島診療所、あるいは地域の小規模病院で支援の実績を上げています(写真)。

ここ数年間は全国的に医療機関ではコロナ対

表 NDC 研修スケジュール (2年間)

1年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習 過程	共通科目				区分別科目							
	Web学習 ディスカッション		実習		Web学習 ディスカッション				実習			
	自施設		研修施設		自施設				研修施設 + 自施設			
2年目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習 過程	臨床研修：早朝Web学習（毎月1回1時間 症例共有）+ 診療所研修2週間											
	自施設（指導医について自施設での活動基盤の構築）											



NDC 1期生 進士勇介(左) 与那国町診療所にて  
当時の金城元氣所長と (2019年6月~8月)

応に終始する事態となりましたが、そんな中でも修了生は各派遣元施設でコロナ対応の最前線で活躍していたことが一昨年の研修報告会で発表されていました。誰もが未経験で資材や人材が不十分な中、医師のみならず看護師も限られた知見を元に自ら思考し、判断する対応が求められました。そんな厳しい状況下でもNDC修了生が役立ったと感じています。

また今回の能登半島地震において協会は後方で被災地患者さんたちを受け入れている病院に看護師派遣を行っています。そこでもNDC修了生が率先して活躍しています。

協会NDC修了生は医療資源が不足する地域、状況に応じて、看護師の業務である診療の補助や療養のお世話という枠を超え、まさに地域ニーズに応える実践者として活躍しているといっても過言ではないでしょう。

## これから

協会は全国の過疎地域、医師不足地域、医療提供がままならない地域から多くの期待が寄せられています。現代の医療は数多くの専門職によって支えられていますが、全ての領域にわたって、それぞれ業務が限定された専門職を全国くまなく配置することは困難です。人材が不足する地域では各専門職が総合的に幅広く対応するばかりでなく、それぞれの職種を超えた業務を担うことが求められます。地域ニーズに合わせて、限られた専門職が柔軟に対応する能力が求められており、そういった状況にシなやかに対応できる人材育成が必要とされているのです。そのためには地域ニーズに合わせた幅広い知識や技術の習得ばかりでなく、そんな学習を好んで行おうとする態度、さらには限られた状況でも困難に立ち向かおうとする姿勢が求められています。

現在協会ではNP育成も開始され、NDC研修と合わせて、地域ニーズに幅広く貢献できる総合的な看護職の育成を目指しています。今後はNDC研修やNP研修が一部の特別なものではなく、全ての看護師の現任研修やあるいは学生教育とつながり、地域での医療サービスの質向上に発展的に寄与してくれることを願っています。